

二十四孝の中より

東京女子高師訓導 山 岸 徳 平

楊 香

昔、支那に楊香といふ子供が居りました。或日父と二人で奥山へ木を伐りに行きますと、大きな虎が眞紅の口をクワツと開いて牙を鳴らしながら父を目掛けて馳けて來ました。楊香は虎を追ひ退けようとしても叶はないと知つて、驚きの餘り魂も身に添はず、只、天を仰いて「希くば我が命を虎に與へ父が命を助けさせ給へ」と一圖に憐愍を乞ひました。この眞心が通じて天も哀れと思つたか、さしも荒れ狂うて來た虎が俄に尾を垂れ牙を納めて何處ともなく去つたから、父子は幸にも虎口を逃れて恙なく家に歸る事が出來ました。これを聞き傳へた人々が誠に楊香が孝心の深い故と感

心しない者はありませんでした。

王 祥

王祥は幼い時から親思ひの人でありました。雪の降つた或る寒い日に母が生魚を望みましたから、骨身に沁み通る寒氣を物ともせず、犖府といふ處の河へ行つて見ました。けれども冬の事ですから、河一面厚い氷に閉ざされて、如何することも出來ません。そこで暫く考へて居りましたが、突然眞裸になつて氷の上に臥しますと、厚い氷も少しつゝ溶けて、そこから二匹の魚が潑刺と飛び出しました。早速捕へてつゝみきれ嬉しさ共に母の許へ持つて行きました。これも孝心の厚かつたためであると、遠近共に褒め傳へたといふこ

とであります。

黄香くわうかう

昔、安陵といふ處に、黄香といふ人が居りました。九歳の時、母に別れてから、力を盡して一人の父に仕へました。夏の暑い時は枕や座蓆を破れ團扇で扇いで少しでも涼しくしてやり、冬の極めて寒い時はいつも自分の體で冷い蒲團を暖めてやりました。この事がその地方の太守なる劉灌の耳に入りますと、所々に札を立て、其の孝行を褒めましたから、その地方の人々は黄香を孝行第一の者だと賞讃して語り傳へたといふ事があります。

冬月ニハムナチ 温衾カニシ 煖

兒童ハレドモトシデヲ 知三子チサン 職シヨク

夏天ニハイデヲ 天扇テンセン 枕シヤク 涼

千古チヨウコ 一黄香イツキョウ

張孝と張禮

張孝と、張禮は兄弟であります。或年非常な飢饉のために五穀は殆ど稔りませんでした。據ん所

なく二人は力を合せて木の實を拾つて八十餘歳の母を後生大事に養つて居りました。例の通り張禮が山へ行つて、木の實を拾つて居りますと、飢ゑた一人の盜棒が來て張禮を殺して食はうと言ひ出しました。張禮は覺悟を定めて言ふには「我れに老いたる母あり。今日はまだ食事を參らせざる故に、暫しの暇を賜れよ、母に食物を參らせて、直ちに歸り來ん、この約束を違へば家へ來て一族迄殺し給へ」と告げ、急いで家に來て母に食事を進め終つて約束の通り再び山へ行きました。かくと知つた兄の張孝は後を追うてこれも山へ行き、盜棒に言ふ様「我は張禮より肥えたれば食するにやからん。張禮を助けて我れを殺せよ」と歎けば、張禮は又「我は初めよりの約束なり」と互に死を争ひましたから、無道の盜棒も兄弟の孝と義に感激して、死を許したのみならず、かやうの兄弟は古今稀であるといつて米二石、鹽一駄を與へました。二人はそれを貰つて歸つてから益々孝行を盡して

老母をいたはりました。

偶、値、縁、林、兒

人、皆、有、兄、弟

代、烹、云、瘦、肥

張、氏、古、今、稀

吳 猛

吳猛は既に八歳頃から孝心厚い子供でありました。不幸にして貧しい家に生れた、め萬事不足勝ちに暮して居りました。ですから夏になつても蚊張はありません。その時、吳猛は「我が衣を脱いで親に着せ、自分が素ッ裸になつて蚊に食はれたら、蚊は我身を食ひに集り、親を幾分でもたすける事が出来よう」と思案をめぐらし、終夜、裸體になつて親の傍に坐して蚊に食はれて居りました。

夏、夜、無、帷、帳

恣、梁、膏、血、飽

蚊、多、不、敢、揮

免、使、入、親、闈

瘦 黔 妻

瘦黔妻は南亭といふ處の人であります。役人と

なつて辱陵縣へ赴任しましたが、まだ十日も経ぬのに何となく胸騒ぎがいたしましたから、若しや父が病氣にでもかゝつて居はしないか心配し、即日官を棄て、歸つて見ますと、案の如く父は大病になやんで居りました。黔妻は驚いて醫師に尋ねると醫師は「病人の糞をなめて見て、若し甘く苦いならばよくなるでせう」と語つた。黔妻はこれを聞くや否や「た易い事です」とて嘗めて見ると味は悪かつたからやがて死ぬのを悲しんで身代りになる様にと北斗の星に心願をかけました。

郭 巨

郭巨は河内といふ處の貧乏人であります。三歳の子をもつて居りましたが、郭巨が老母は孫の可愛いさに多くもない自分の食事をすら分け與へて居りました。或時郭巨は妻に向つて「貧しいため母の食事も不足と思つて居るのにそれすら分けて孫に與へたならば足らぬ事明かなり。是れも我に

子の有る故ぞ。汝と夫婦ならばまた子供は生るべし。母は二人とないからに、この子を埋めてよく母を養はんと思ふは。」と語れば妻も悲しい事とは思つたが夫の命に従つて三歳になつた可愛い盛り
の兒を連れて遠い處へ埋めに行きました。男ながらも愛にひかされて郭巨は涙ながらに穴を掘つて居ますと、地中から黄金の釜が出て來ました。而も不思議なことには、天賜^ツ孝子郭巨^ニと云ふ様な文字がありくと讀めました。この釜を得て天の助けを感謝して兒をも埋めず釜と共に連れかへつて愈々孝養を盡したと傳へて居ります。

孟宗

孟宗は幼にして父を失ひ、老いた母にかしづいて居りました。母は老人の事として食物の味も變りがちでたえず諸々の物を望んで止みませんでした、丁度冬の眞最中の事、筍が欲しいと言ひ出し、た、孟宗は鋤をもつて裏の竹藪へ行つて求めまし

たが何分雪の深く積つた時でしたから、如何して筍などがありません。孟宗は途方にくれて竹に倚り添ひ天に祈りをかけて憐みを乞うて居りますと、俄に大地から筍が簇々出て來ました。乃ち大喜びで掘り取つてかへり、羹にして母に差しあげると母は病も無くなり齡も大變延びました。これも孝心に感じて天から授かつたものであると、人々は語り次いで居ります。

涙滴^リ朔風寒

蕭々^々竹數竿

須叟^ニ春筍出^ツ

天意報^ズ平安^ヲ

不感心な二十四孝の仕方

支那では「孝は百の行本」と申しまして、すべての行の第一に位するものが孝になつてをります。そこで孝に關係した行爲は随分賞讃せられて居りまして孝子傳とか讀孝子傳とかいふ様な書物もある位であります。今述べた二十四孝も題目だけは誰知らぬ者も無い程有名になつて居りますが、考へ

て見れば感心の出来ぬ仕方がなか／＼澤山あります。一夜中眞ッ裸になつてジツとして蚊に刺されてゐるのも馬鹿々々しい話ですし、醫者の言葉だと言つて、縣知事が鹿爪らしく親の糞を嘗めて見て味がよくないからと心配するなどは、味のよい糞もあるのか知りませんが、支那人ならでは出来ぬ藝當、又裸で氷の上に臥すのも氣のきかない話ではありませんか。少し位の體溫よりドン／＼火を焚いたら餘程早く溶けたでせうに。然し此處に身を殺して孝を盡すといふ所があるものとも見られぬこともありますまい。

元來、二十四孝の話は元の時代に、郭居業といふ人が作つたもので殆ど全部が随分極端な世俗談に過ぎないのであります。

序にあげると孝子二十四人の名は次ぎの通りであります。

大舜、漢文帝、曾參、丁蘭、
孟宗、閔子騫、王祥、老萊子、

姜詩、唐夫人、楊香、董永、
黃香、王褒、郭巨、朱壽昌、
劊子、蔡順、庾黔婁、吳猛、
黃庭堅、江革、陸績、仲由、
仲由と江革の代りに張兄弟と田兄弟を擧げたのもあります。